

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	愛知文教大学
設置者名	学校法人 足立学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
人文学部	人文学科	夜・通信	31	24	7	31	13	
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学情報公表 HP https://www.abu.ac.jp/about/information_publication/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	愛知文教大学
設置者名	学校法人 足立学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人足立学園情報公表HP <https://www.adachi-gakuen.ed.jp/public.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	企業取締役社長	令和7年5月28日～令和11年6月定時評議員会終結時まで	財務、人事、経営企画等法人運営全般
非常勤	企業取締役	令和7年5月28日～令和11年6月定時評議員会終結時まで	財務、人事、経営企画等法人運営全般
非常勤	企業取締役	令和7年5月28日～令和11年6月定時評議員会終結時まで	財務、人事、経営企画等法人運営全般
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	愛知文教大学
設置者名	学校法人 足立学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業担当教員に「シラバス作成上の留意事項」を配布し、シラバスの作成を依頼している。(旧年度末までに校了し、新年度前までに公表) 法令等で変更のあった点については、関連する事項に関する記載内容・方法をそのつど見直している。シラバスは大学ホームページにおいて公開し、学内外から学生はもとより学外者でも内容を確認することができる。なお、シラバス公開前には、作成者以外のシラバス担当教務委員が必ず各科目のシラバスに不備がないかどうかチェックする体制を取っている。 単位制度の実質を保つために、履修登録単位数の上限を1セメスター22単位(1年間44単位)としている。このように履修登録単位数に上限を設定することにより、履修超過による単位認定の形骸化を防ぎ、単位の実質化を確保している。年間44単位をすべて修得すると、卒業年次を待たずに卒業要件である124単位を修得することになるが、卒業年次にも「アカデミアゼミ」を必修にすることによって最終年次の形骸化を防いでいる また、入学後の通算GPAが3.20以上の場合は、次学期の履修登録可能単位数の上限を26単位とし、その場合でも各年次の履修登録単位数が50単位を超えないようにしている。 教授方法の改善を進める体制として、FD(Faculty Development)委員会を設置している。 同委員会は研修会、授業調査アンケートなどの実施を担っている。 令和7(2025)年度は、全教員を対象としたFD研修会を2回実施した。 また、授業調査アンケートも各セメスター末に年間2回行っている。 なお、教務委員会では、学長の諮問を受けて、①教育課程及び学修プログラムに関する事項、②その他、学長、学部長及び教務部長が必要と認めた事項を審議し意見を学長に述べることになっている。	
授業計画書の公表方法	本学 HP シラバス https://aaaportal.abu.ac.jp/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EU&opi=mt0010
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

単位の計算方法は、学則第 36 条に規定されている。大学設置基準第 21 条にもとづき、1 単位の授業科目は 45 時間の学修を必要とする内容で構成することを標準とし、講義及び演習については 15 時間から 30 時間の授業をもって、実験、実習及び実技については 30 時間から 45 時間の授業をもって 1 単位としている。

なお、1 授業時間は 90 分とし、これを単位計算における 2 時間とみなしている。1 セメスターの授業期間は、定期試験を除き 15 週を確保している。

また、海外留学で履修した科目については学則第 40 条にのっとり、60 単位を上限として本学での既修得単位として認定している。

また本学は、愛知県内の大学が加盟する「愛知学長懇話会」において締結された「単位互換に関する包括協定」にもとづく「単位互換事業」を実施しており、その単位認定は、他大学等で修得した単位の認定に即して行っている。

授業実施にあたっては、「授業実施にあたってのお願い」を教務部長名で非常勤講師を含む全教員に配布し、確保すべき授業時間数、出欠確認、試験実施、成績評価等についても留意事項を周知・徹底している。

学生の出席管理は確実に行っており、「愛知文教大学人文学部履修規程」に基づき、定期試験受験に必要な出席の条件を授業実施回数の 5 分の 4 以上の出席とし、出席、遅刻、公欠等については「出席、遅刻、公欠等の取扱いに関する規程」に必要な事項を定めている。

修了試験（定期試験）、修了試験の欠席者に対する追試験および科目不合格者に対する再試験については、「愛知文教大学人文学部試験規程」にのっとり、厳正に実施している。

なお、学生が成績評価に対して疑義を抱いた場合には、「成績評価調査制度」により科目担当教員に確認を求めることができるようにしており、成績評価の適正化・公平化に努めている。

3. 成績評価において、GPA 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

<成績評価>

授業科目の成績評価基準は履修規程第 14 条に規定されており、成績評価は各授業担当教員が個々の履修者の定期試験の評価に加え、日頃の受講態度（平均点）出席状況、レポート等課題の内容で学修過程と学修成果を総合的に判定して厳正に行っている。

シラバスには、開講されるすべての授業科目について授業計画と成績評価基準が明記されている。実技・実習を主とする一部の科目を除いて成績評価に評価点平均（GPA : Grade Point Average）を導入し、客観的かつ総合的な成績評価に努めている。

<算出方法>

次の計算式により単位あたり平均を算出する。

$$GPA = \frac{[(\text{科目の単位数}) \times (\text{その科目で得た評価点})] \text{の合計}}{(\text{履修登録した単位数}) \text{の合計}}$$

英語科目では履修要件設定や単位認定に TOEIC のスコアを用いるようにしているほか、一般・社会人学生対象の中国語科目では、履修要件設定や単位認定に中国語検定試験 HSK の取得級を取り入れている。

なお、客観的な指標の設定と公表を目的とし、教員と履修者が到達目標を共有し、より客観的な成績評価を実現するために、ルーブリックを導入している科目もある。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	本学 HP II 修学上の情報4学修の成果に係る評価及び卒業 又は修了の認定にあたっての基準 https://www.abu.ac.jp/about/information_publication/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
	(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) <卒業認定> 本学では、使命・目的及び教育目的を踏まえて卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、公表している。卒業判定及び単位認定は規程に従って厳正に行っており、成績評価基準は履修規程に定めている。 <卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）> 愛知文教大学（以下「本学」）は、足立学園創立者足立閭勵（ぎんれい）の意志を、グローバル化する社会において一生を生き抜く強い心とそれを助ける社会力を養成するという現代的理念として継承している。この理念に基づき、人文学部人文学科では、急激に変化する現代社会を生き抜いていく人材を育成するために、自文化及び異文化についての深い理解と実践的な言語運用能力の修得を通して、高いコミュニケーション力を獲得することを目的とした教育を実践している。これは、意思伝達の道具としての言葉を社会や文化とのかかわりから問い直した「ことば」を教養教育の学修基盤として、その作用や多文化共生についての理解、それに基づく自己表現力や社会人基礎力、特定の分野に限定されない広い教養と視野を重視する教養教育とともに、「グローバル英語コース」、「中国語・中国文化コース」、「教員養成コース」、「人文総合コース」、「国際日本コース」という主専攻コースとして具体化されている。これらのコースにおいては、卒業までに修得すべき内容として以下のものが求められ、所定の単位を得た学生は卒業が認定される。 1) 教養教育科目群の学修を通して、「ことば」についての理解と適切な運用能力、人間についての知識・見識、多文化共生に必要な知識・見識、基礎的な外国語運用能力、社会人としての基礎的な能力を修得する。 2) 「グローバル英語コース」、「中国語・中国文化コース」においては、英語および中国語による実践的なコミュニケーション能力を修得し、英語圏・中国語圏に関する理解を深める。 3) 「教員養成コース」においては、教職および教科に関わる専門的知識や実践的な教育技能の獲得を通して、多様な学習者に対応できる指導力やコミュニケーション力を修得する。 4) 「人文総合コース」においては、日本文化を中心とし、比較文化および多文化共生に必要な基礎知識を身につけ、各分野の調査・分析方法に習熟しつつ、それぞれの興味関心に従った課題を見つけ、自分の「ことば」で表現する能力を修得する。 5) 「国際日本コース」においては、実践的な日本語運用能力を身につけ、日本語・日本文化の理解を通して国際社会に貢献できる能力を修得する。 6) 「アカデミアゼミ」を通して、自ら設定したテーマについて主体的に研究・調査を進め、その成果を説得力をもって発信することのできる能力を修得する。
卒業の認定に関する 方針の公表方法	本学HP 理念と教育、愛知文教大学人文学部教育の3つ の方針、卒業の認定に関する方針 https://www.abu.ac.jp/about/philosophy_and_education/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	愛知文教大学
設置者名	学校法人 足立学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	法人HP報告書などの公開財務情報 https://www.adachi-gakuen.ed.jp/public.html
収支計算書又は損益計算書	法人HP報告書などの公開財務情報 https://www.adachi-gakuen.ed.jp/public.html
財産目録	法人HP報告書などの公開財務情報 https://www.adachi-gakuen.ed.jp/public.html
事業報告書	法人HP報告書などの公開財務情報 https://www.adachi-gakuen.ed.jp/public.html
監事による監査報告(書)	法人HP報告書などの公開財務情報 https://www.adachi-gakuen.ed.jp/public.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学 HP 情報公表自己点検報告書 https://www.abu.ac.jp/about/information_publication/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文学部
教育研究上の目的（公表方法：本学 HP 理念と教育 建学の精神と使命・目的） https://www.abu.ac.jp/about/philosophy_and_education/ （概要） 愛知文教大学は「質実有為で宗教的情操を身につけた真人の育成」を建学の精神とし、昭和 2 年に足立閭励（ぎんれい）が創設した稲沢高等女学校に端を発している。 創立者は、当時社会的に弱い立場に立たされやすい女子に対して、仏教的教育により自立と幸福を目指すという理想を掲げて教育に尽力した。 私たちはこの意志を継承し、大学と大学院の使命・目的及び教育目的を次のように定めている。 愛知文教大学の使命・目的 愛知文教大学は、教育基本法並びに学校教育法の精神にのっとり、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、もって「質実有為で宗教的情操を身につけた真人の育成」という建学の精神を実現することを使命とする。 本学は、建学の精神を現代社会に適応させるべく、「急激に変化する現代社会を生き抜く人材の育成」と読み替え、グローバル化の波にあってもが容易に社会的弱者になりうる現代社会において、その没落を防ぎ、一生を自立的に生き抜く強い心とそれを助ける社会力を備えた人材を育成することを通じ、社会の発展に寄与することを目的とする。 愛知文教大学人文学部人文学科の教育目的 本学人文学部人文学科は、上記の使命・目的を達成するため、自他の文化に関する幅広くかつ深い理解にもとづく人文知の総合的な育成、および実践英語、実践中国語の修得と母語の運用能力向上による真のコミュニケーション力の養成を教育目的とする。 卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学 HP 理念と教育ディプロマポリシー） https://www.abu.ac.jp/about/philosophy_and_education/ （概要） 愛知文教大学（以下「本学」）は、足立学園創立者足立閭励（ぎんれい）の意志を、グローバル化する社会において一生を生き抜く強い心とそれを助ける社会力を養成するという現代的理念として継承している。 この理念に基づき、人文学部人文学科では、急激に変化する現代社会を生き抜いていく人材を育成するために、自文化及び異文化についての深い理解と実践的な言語運用能力の修得を通して、高いコミュニケーション力を獲得することを目的とした教育を実践している。 これは、意思伝達の道具としての言葉を社会や文化とのかかわりから問い直した「ことば」を教養教育の学修基盤として、その作用や多文化共生についての理解、それに基づく自己表現力や社会人基礎力、特定の分野に限定されない広い教養と視野を重視する教養教育とともに、「グローバル英語コース」、「中国語・中国文化コース」、「教員養成コース」、「人

文総合コース」、「国際日本コース」という主専攻コースとして具体化されている。

これらのコースにおいては、卒業までに修得すべき内容として以下のものが求められ、所定の単位を得た学生は卒業が認定される。

1. 教養教育科目群の学修を通して、「ことば」についての理解と適切な運用能力、人間についての知識・見識、多文化共生に必要な知識・見識、基礎的な外国語運用能力、社会人としての基礎的な能力を修得する。
2. 「グローバル英語コース」、「中国語・中国文化コース」においては、英語および中国語による実践的コミュニケーション能力を修得し、英語圏・中国語圏に関する理解を深める。
3. 「教員養成コース」においては、教職および教科に関わる専門的知識や実践的な教育技能の獲得を通して、多様な学習者に対応できる指導力やコミュニケーション力を修得する。
4. 「人文総合コース」においては、日本文化を中心とし、比較文化および多文化共生に必要な基礎知識を身につけ、各分野の調査・分析方法に習熟しつつ、それぞれの興味関心に従った課題を見つけ、自分の「ことば」で表現する能力を修得する。
5. 「国際日本コース」においては、実践的な日本語運用能力を身につけ、日本語・日本文化の理解を通して国際社会に貢献できる能力を修得する。
6. 「アカデミアゼミ」を通して、自ら設定したテーマについて主体的に研究・調査を進め、その成果を説得力をもって発信することのできる能力を修得する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学 HP 理念と教育カリキュラムポリシー）
https://www.abu.ac.jp/about/philosophy_and_education/

（概要）

人文学部人文学科では、教育目的を達成し学位を授与するために、言語による自己表現力や社会人基礎力、そして日本文化の理解を重視する教養教育と、「グローバル英語コース」、「中国語・中国文化コース」、「教員養成コース」、「人文総合コース」、「国際日本コース」という主専攻コースを中心としたカリキュラムを編成している。

1. 設置科目は、「教養教育科目群」および「専門教育科目群」の2つの科目群が中心となる。
2. 「教養教育科目群」は大学教育を受ける上での基礎知識やスキル、人文学部にふさわしい基礎的な教養、日本文化理解、社会および文化と言語の関係についての理解に基づく言語運用能力、基礎的な外国語運用能力、国際的なビジネスシーンにおける将来のキャリア形成と社会人としての基礎的な能力、人間と多文化共生についての知識・見識など、特定の分野に限定されない広い教養と視野を身につけるための科目群である。
3. 「専門教育科目群」では、「グローバル英語コース」、「中国語・中国文化コース」、「教員養成コース」、「人文総合コース」、「国際日本コース」のうち主専攻コースのカリキュラムに沿って、それぞれの学修に必要な基礎的な知識や能力を段階的に身につけます。さらに3年次からは、「アカデミアゼミ」を中心に、みずから課題を設定して専門的な研究を行ない、研究成果を適切な言語使用により発表することのできる能力を養う。
4. 「グローバル英語コース」においては、国際社会で活躍することを目指す学生が積極的に英語学修に取り組めるよう、レベル別少人数クラス、

英語「で」学ぶ科目、多彩な留学プログラムなどによって実践的な英語の習得を目指す。

また、TOEIC の受験を通じ、学修成果を客観的に測れるようにする。

5. 「中国語・中国文化コース」においては、入門・初級段階において、言語の基礎力の養成だけでなく、その「ことば」を育んだ歴史、文化、社会に関する理解を深める必修科目を学びます。その上で、社会のニーズに直結した多彩なプログラムによって、より実践的で高度な中国語の修得を目指す。

一方、多様な留学プログラムや中国語母語話者との会話演習を通して、より実践的な中国語運用能力を養成します。また、HSK の受験を学修成果可視化のツールとし、2 年次までに HSK4 級を、4 年次春期までに HSK5 級以上の取得を目指し、就職や進学に結びつける。

6. 「教員養成コース」においては、教職および教科に関わる専門的な知識と実践的な教育技能を、教育インターンシップなどの実習科目を通して体系的かつ系統的に積み上げることを軸にしながら学び、多様な学習者に対応できる指導力やコミュニケーション力を養い、教員として求められる実践的な力の修得を目指す。

7. 「人文総合コース」においては、「共通分野」科目では日本文化を中軸とし、各領域における基礎知識を学び、学問的探究方法を身につける。「表象」「言語」「歴史」の文化分野科目では、大衆文化の学術的価値言語文化の特色、伝統文化の原典考察等に注目し、興味関心に従い、専門に関わる課題の修得を目指します。自力で資料を収集・分析・考察しその結果を論理的に構成し、自分の「ことば」で表現する能力を育成する。

8. 外国人留学生を対象とする「国際日本コース」では、1・2 年次には日本語能力の向上と日本の社会や文化に関する基礎的な理解を深めるために同コース専用の科目を中心に学びます。3, 4 年次には同コース専用の科目に加え、一般学生と共通の科目を履修することによって日本語能力試験 N1 レベルの修得を目指すとともに、日本に対する深い理解を持ち、知日派として自国と日本との架け橋となる、あるいは日本に関連する企業において活躍できる人材となるための能力の養成を図る。

9. 学修成果の評価においては、ディプロマ・ポリシーに沿った到達目標を定め、明確な成績評価の基準・方法を策定、学生に周知することによって、学生が自ら知識や理解の到達度を正確に確認できるようにする

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学 HP 理念と教育アドミッションポリシー）

https://www.abu.ac.jp/about/philosophy_and_education/

（概要）

本学の教育は、学生が現在「何が出来るか」ではなく、これから「何をしたいか」を探し追求していくことを重んじる。

そして急激に変化する現代社会を生き抜く人材の養成のために、日本及び外国文化についての深い理解と実践的な語学の修得を通して、高いコミュニケーション力を獲得することを目的とした教育を実践している。

この教育目標を十分に理解し、本学の教育に意欲的に取り組む方を求める。本学の求める人材は次のような資質を持つ者である

1. 学ぶ意欲を持ち、大学で修得した知識や技能を基礎力とし、他者を尊重しつつ社会で活躍し貢献していく希望を有する者。
2. 本学の教育理念と学修プログラムを理解し、それについて強い関心と意

欲を有し、本学での学修活動に最後まで取り組む意欲を持つ者。

3. 専門に直結する分野に限らず、幅広い文化理解と教養を獲得するために学修にまじめにかつ意欲的に取り組むとともに、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ姿勢を持つ者。

4. 常に将来を意識し、一步一步挑戦を重ねていく意欲を持つ者。

入学者の判定は以下のような方針にもとづく。

一般選抜では、個別学力検査および大学入学共通テストの結果、またはその両方を組み合わせることによって評価します。なお、個別学力検査においては次の点を重視する。

●国語：基礎的な日本語の読解力、表現力、論理的な思考力

●外国語（英語）：文法、語彙、イディオム、読解力を中心とした基礎的な英語運用能力

●歴史科目：異文化理解および日本の伝統と文化を理解する基礎となる知識

●数学：高等学校卒業レベルの基礎的な数学的知識と処理能力

●小論文：論理的な思考力・表現力、社会のできごとに対する知識・問題関心・意欲・理解度

学校推薦型選抜では、クラブやボランティア、資格取得など高等学校内外での種々の活動など学以外の諸成果も重視し、筆記試験だけでは測ることのできない能力を多面的、総合的に評価するとともに、書類選考、小論文、面接試験、プレゼンテーションを組み合わせることによって基礎的な日本語の表現力、論理的な思考力をみる。

総合型選抜では、スポーツや芸術などの分野における活動など学業以外の諸成果も重視し、筆記試験だけでは測ることのできない能力を自主性・意欲を評価のポイントとして多面的、総合的に評価するとともに、書類選考、小論文、面接試験、プレゼンテーションを組み合わせることによって基礎的な日本語の表現力、論理的な思考力をみる。

国際日本コースにおいては、筆記試験と面接試験によって、本学での学修に必要な基礎的な日本語力を評価する。

特別選抜（編・転入学入試、社会人入試）では、書類選考と面接試験を組み合わせることによって基礎的な日本語の表現力、論理的な思考力をみるとともに、出身校での単位修得状況や社会人としての実績や経験にもとづき、入学後の学修に必要な知識・能力の有無を判定する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学HP 情報公表 IV上記以外の情報の公表 2. 教育研究上の情報

https://www.abu.ac.jp/about/information_publication/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3 人	－					人
人文学部	－	8 人	7 人	1 人	人	人	19 人
	－	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
3 人		16 人					19 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：本学HP教員紹介 https://www.abu.ac.jp/depart/teacher_introduction/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文学部	110 人	53 人	48.2%	470 人	242 人	51.5%	8 人	8 人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	110 人	53 人	48.2%	470 人	242 人	51.5%	8 人	8 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	44 人 (100%)	2 人 (4.5%)	36 人 (81.8%)	6 人 (13.7%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	44 人 (100%)	2 人 (4.5%)	36 人 (81.8%)	6 人 (13.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業担当教員に「シラバス作成上の留意事項」を配布し、シラバスの作成を依頼している。（旧年度末までに校了し、新年度前までに公表） 法令等に変更のあった点については、関連する事項に関する記載内容・方法をそのつど見直している。シラバスは大学ホームページにおいて公開し、学内外から学生はもとより学外者でも内容を確認することができる。なお、シラバス公開前には、作成者以外のシラバス担当教務委員が必ず各科目のシラバスに不備がないかどうかチェックする体制を取っている。 単位制度の実質を保つために、履修登録単位数の上限を1セメスター22単位（1年間 44 単位）としている。このように履修登録単位数に上限を設定することにより、履修超過による単位認定の形骸化を防ぎ、単位の実質化を確保している。年間 44 単位をすべて修得すると、卒業年次を待たずに卒業要件である 124 単位を修得することになるが、卒業年次にも「アカデミアゼミ」を必修にすることによって最終年次の形骸化を防いでいる また、入学後の通算 GPA が 3.20 以上の場合は、次学期の履修登録可能単位数の上限を 26 単位とし、その場合でも各年次の履修登録単位数が 50 単位を超えないようにしている。 教授方法の改善を進める体制として、FD (Faculty Development) 委員会を設置している。令和 7(2025)年度は、全教員を対象とした FD 研修会を 2 回実施した。 また、授業調査アンケートも各セメスター末に年間 2 回行っている。 なお、教務委員会では、学長の諮問を受けて、①教育課程及び学習学修プログラムに関する事項、②その他、学長、学部長及び教務部長が必要と認めた事項を審議し、意見を学長に述べることになっている。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学修成果の評価に関する方針(アセスメント・ポリシー) 愛知文教大学では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに もとづき、機関(大学)レベル、教育課程(学部・学科)レベル、科目レベルにおいて、学修成果を多角的に測定・把握して可視化することによって検証し、教

育改善に生かす。

検証は以下の方法により行ない、検証結果は個人情報保護に十分に留意しながら学生、教職員関係者および社会に対して公表するとともに、検証結果を活用して PDCA サイクルを十分に機能させることにより、教育の内部質保証を実現していく。

- 1) 機関(大学)レベル:入試選抜および入学から卒業までの期間における学修成果の達成状況を検証する。
- 2) 教育課程(学部・学科)レベル:学部・学科における学修成果の達成状況を検証する。
- 3) 科目レベル:個々の科目における学修成果の達成状況を検証する。

a. アセスメントのレベル、方法、指標、三つのポリシーとの関係

	入学時(アドミッション・ポリシーを満たす人材であるかどうか)	在学時(カリキュラム・ポリシーに則って学修が行なわれているかどうか)	卒業時・卒業後(ディプロマ・ポリシーを満たす人材になったかどうか)
機 関 レ ベ ル	入学試験 [入試広報センター] 調査書等の記載内容 [入試広報センター] 面接、志願理由書等 [入試広報センター] 新入生に対する意識調査 [入試広報センター] 学長昼食会 [教学部]	GPA [教学部] 成績状況および単位修得状況 [教学部] 休学・退学・除籍率 [教学部] 留学状況 [グローバル教育センター] 課外活動状況 [教学部] 在学生アンケート(満足度調査) [総合企画部] ・図書館利用状況 [図書館]	学位取得状況 [教学部] 卒業時アンケート(満足度調査) [総合企画部] 卒業生アンケート [総務部] 進路状況 [キャリアセンター] 就職先アンケート [キャリアセンター]
教 育 課 程 レ ベ ル	入学試験 [入試広報センター] 調査書等の記載内容 [入試広報センター] 面接、志願理由書等 [入試広報センター] 新入生に対する意識調査 [入試広報センター] 入学前教育取組状況 [教学部] ジェネリックスキル測定・育成プログラム [総合企画部]	GPA [教学部] 成績状況および単位修得状況 [教学部] TOEIC/HSK/日本語能力試験成績 [教学部] 在学生アンケート(DP 達成状況調査) [総合企画部] 学修ポートフォリオ [教学部] ジェネリックスキル測定・育成プログラム [総合企画部]	単位修得状況 [教学部] 卒業論文・卒業研究 [教学部] 卒業時アンケート(DP 達成状況調査) [総合企画部] 卒業生アンケート [総務部] 進路状況 [キャリアセンター] 資格取得状況 [キャリアセンター] TOEIC/HSK/日本語能力試験成績 [教学部]

科目 レベル	プレイスメントテスト (英語) [教学部]	成績評価 [教学部] 出席状況 [教学部] <u>授業調査アンケート</u> [FD 委員会] 学修ポートフォリオ [教学部]	
-----------	-----------------------------	--	--

b. 個々の授業科目におけるアセスメントの方針

1. 個々の授業科目の成績評価は、愛知文教大学人文学部履修規程第4章「試験、成績評価および単位の修得」の規定に則り、公正かつ厳格に行う。
2. 6段階評価で成績評価を行なう科目の成績評価基準は、以下のように運用する。

合否	評価	成績評価基準	GP*	評価内容
合 格	S	100—90 点	4	学修目標に到達し、特に優れた成果を収めた
	A	89～80 点	3	学修目標に到達し、優れた成果を収めた
	B	79～70 点	2	学修目標におおむね到達し標準的な成果を収めた
	C	69—60 点	1	学修目標に到達する最低限の成果を収めた
不合格	D	59—40 点	0	学修目標に到達してなく不合格だが再試験受験可
	E	39—0 点	0	学修目標に到達してなく不合格で再試験受験不可
未受験	X		0	定期試験未受験のため成績評価対象外

* GP： GPA 算出に用いるグレードポイント(Grade Point)

3. 個々の授業科目の成績評価方法・基準はシラバスに明記し平準化に努める。
4. 同一の必修・選択科目が複数クラス開講される場合、全クラス統一の成績評価方法・基準を取り入れる。
5. 当該学期の GPA が 1.0 未満の場合には、個別指導を実施する。教務課から本人に注意・指導を与えるとともに、保護者にも通知する。さらに必要に応じ、学長ないしは学部長が本人および保護者と面談する。

卒業に必要な単位数：4年以上在籍して教養科目群 50 単位以上と専門教育科目群 60 単位以上を含め合計 124 単位以上

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学情報公表 HP 校地校舎教室

https://www.abu.ac.jp/about/information_publication/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
人文	人文	780,000 円	200,000 円	335,000 円	4 年生はその他費用 320,000 円

		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 本学における学生への学修支援は、学長室会議、運営委員会や教授会で話し合われた方針・計画に基づき、授業担当教員、教務委員会に属する教員、事務局教学部の職員が協力・協働で行っている。 特に、大学の授業に不慣れな1年次生と2年次生に対しては、事務局が学生の履修等に関する相談、指導を行っており、さらに具体的な学修や進路等に関する相談が必要な場合には、教員が事務局教学部の職員と協力・協働してあたっている。 3、4年次生に対しては、全学生が履修する「アカデミアゼミ」の指導教員が学修状況や卒業研究・論文等に関する指導をはじめとする相談に、事務局教学部の職員と協力・協働して対応している。 欠席の多い学生に対しては事務局の職員が指導することにより、学生の中途脱落を未然に防止する方策を取っている。 休学から復学した学生や留年者に対しても事務局教学部の職員が円滑に学修できるように相談等を行なって支援している。 また、本学の特徴的な学修支援として、授業担当の専任教員による授業期間内外における定期的な補習が挙げられる。補習は、語学(中国語及び留学生対象の日本語)と教職志望者対象諸科目(英語、国語、教職)が中心である。さらに本学では、実践的な言語運用能力の育成を不可欠な過程として重視した学修支援体制を整備している。 Chinese Communication Lounge(「CC ラウンジ」)と English Lounge(「E ラウンジ」)がそれにあたる。 これらは、実践的な会話練習の場の確保と特に初年次における学修モチベーションの形成・維持が趣旨となっており、英語または中国の母語話者ないしはそれと同程度の留学生を Student Assistant(「SA」)として任用して運営している。 レッスンの内容においては、TOEIC 及び HSK の受験を念頭に置いている。 国際日本コースにおける留学生の学修支援は、1・2 年次における日本語及び日本文化に関する知見の獲得を積極的に支援し、3 年次以降にゼミにおいて円滑に学修を展開させるために、教員及び事務局 職員が協力・協働して日本語の高度な運用能力を修得するよう指導していく体制を整えている。 そして、シラバス等に日本語能力試験の取得級を履修条件とする科目について明確に示し、教員及び職員が連携して留学生に早期の日本語能力試験の受験及び資格取得を勧奨している。 日本語能力試験の取得級に応じて留学生奨学金支給額に差を設けることによって学修意欲の増進を図っており、同試験受験を念頭に置いた補習を授業期間中に専任教員が定期的に行っている。	b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) 本学は教育課程内にキャリア教育に関する科目を設けている。 また、本学はインターンシップを教育 課程に取り入れており、キャリアセンターおよび担当一と協力して学内インターンシップとして本学オープンキャンパスにおける補助的な業務に携わることができるようにしている。 就職支援体制としては、教職員で構成されるキャリアセンターとキャリア委員会を設置しており、教 員も参画して親身な相談や助言を行っている。 キャリアセンターは、学生からの相談を受ける窓口になっており、各企業・諸団体のパンフレット、求人情報など就職に関する情報の収集、専任職員による開 拓も積極的に行ってお
---	--

り、インターンシップ先の企業や行政機関との連携も深めている。 さらに、きめ細かなガイダンス、セミナーの開催、外部講師による指導等も実施するとともに、学生が就職活動の説明会に積極的に参加できるようにポータルサイトを活用した情報提供も行っている。 キャリアセンターの充実を図るため、専任教員(キャリアセンター兼務)がキャリア関係の授業科目とキャリアセンターの業務を担っている。 キャリア委員会は、キャリアセンター職員から就職内定状況やその他の情報提供を受け、課題への対応や教育課程で行われているキャリア科目の方向性について意見交換をするなど学生の満足度を高める工夫を行っている。 学生への周知は、学生便覧に本学の就職支援の概要を掲載するとともに、本学ポータルサイトに個別の情報を掲載するなどして行っている。 また、学生の相談は、本人の希望等を配慮して個別指導として実施しているが、あまり相談に来ない場合にはゼミ担当教員に情報を提供し、当該学生の就職活動の状況を逐次掌握できるようにしている。 また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によりオンラインによる授業が多くなった際に、学生との対面による就職指導や活動状況を把握する機会が少なくなったので学生にメールや電話によってアプローチする方法も取り入れた。 その一例として、ゼミ担当教員を通じて学生の就職活動や内定状況等を掌握するため、新たに「就職活動チェックシート」を作成し、教員とキャリアセンター間での共通認識確立のためのシステムを構築して学生の状況確認を行った。 留学生にとっては、日本の就職活動がどのように行われ、内定から採用までどのように至るかを理解することが重要であるため、ハローワークや名古屋外国人雇用サービスセンター宛の求職申込書の提出指導、及びJ-NETの登録企業から留学生向け求人検索方法の紹介をガイダンスやキャリアセンター等で行っている。 さらに、キャリア委員会に留学生を担当する教員も加わり、留学生特有の指導である在留資格の変更方法、日本企業で働くための基本情報の提供、エントリーシート、履歴書や在留資格変更申請書類の書き方、名古屋外国人雇用サービスセンターの利用指導なども行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 本学は医務室・学生相談室を設置しており、看護師及びカウンセラーが学生の健康状態把握や心身の問題に関する相談に対応している。 校医、産業医は必要に応じてコンタクトをとるシステムとなっている。 緊急の場合には、職員随行のもと近隣の病院への搬送によって対応している。 AED(自動体外式除細動器)は事務局前に設置している。学生の定期健康診断は学校保健法に基づき、4月に全学的に行う。健診結果は、看護師より学生全員に原則として手渡しで返却、その際に健康上の注意点等を学生に伝達し、全学生の状況を把握している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法: 本学情報公表 HP https://www.abu.ac.jp/about/information_publication/ 備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。
--

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F123310106764
学校名（〇〇大学 等）	愛知文教大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人足立学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		37人（18）人	32人（－）人	38人（18）人
内 訳	第Ⅰ区分	16人	16人	
	（うち多子世帯）	－	（－人）	
	第Ⅱ区分	－人	－人	
	（うち多子世帯）	（－人）	0人	
	第Ⅲ区分	－人	－人	
	（うち多子世帯）	（－人）	（0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	0人	－人	
	区分外（多子世帯）	11人	－人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（0）人
合計（年間）				38人（18）人
（備考）				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	-人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	0人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
G P A等が下位4分の1	-人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	-人	人	人
計	-人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。